（別紙4）　　平成　23　年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 4373000688 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人　栄和福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホームたのうらそう | | |
| 所在地 | 熊本県葦北郡芦北町大字田浦町822－3 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年12月22日 | 評価結果市町村受理日 | 平成24年3月27日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4373000688&SCD=320 |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」 |
| 所在地 | 熊本県熊本市水前寺6丁目41―5 |
| 訪問調査日 | 平成24年1月11日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

平成22年4月にグループホームⅡがオープンし利用者総数も18名の方が利用することができるようになりました。オープン時新規採用の職員も1年と9か月となり落ち着いた生活がご利用者と援助する側もできるようになりました。地域の保育園との交流や芦北高校の福祉科の生徒の実習受け入れと地域交流も実践し開かれた施設であります。また、外出も盛んに行い季節ごとに水俣や人吉に足をのばし、以前は外出することができなかったご利用者は、大変喜ばれる結果となりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

シンプルで横長い建物の中央玄関を入ると、モダンで落ち着いたリビングがある。新しくオープンしたグループホームⅡとの間仕切りを取り払らい、ホームⅠとの境をなくしたことで18名の利用者がⅠ・Ⅱ両ホームの職員と共に大家族のような暮らしが営まれている。車椅子利用の入居者が多いが、外出の機会をできるだけ増やすことで施設内だけの生活ではない暮らしの変化や、楽しみを提供している。職員の労務管理も整備され、働きやすい職場環境で、ゆとりを持って利用者に接する職員の様子が見られた。

## Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38） | ○ | 1. 毎日ある |
| | | | 2. 数日に1回程度ある |
| | | | 3. たまにある |
| | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19） | | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | ○ | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20） | | 1. ほぼ毎日のように |
| | | ○ | 2. 数日に1回程度 |
| | | | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4） | | 1. 大いに増えている |
| | | ○ | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12） | | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | ○ | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどできていない |

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 当事業所の理念である「自然と共生し笑顔が絶えない安らぎのある家をつくります。」とあります。地域へのドライブには常に出かけており地域保育園との交流など行っている。 | 「家族の一員としての尊厳を守ること、安心して穏やかの生活ができるようにお手伝いすること、地域に出かけて自然と共に笑顔が絶えない安らぎの場を提供すること、やりたいことをやりたい時にやる自由な暮らしを確保すること」等を理念としている。職員には専門職として高い意識を持つよう指導し、笑顔のケアで、自然と親しむ外出支援を強化するなど、理念の実践に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域保育園児との交流やコンビニなどへの買い物、季節行事で蛍見学やコスモス見学など行い同じく見学に来られた方々と話す機会があった。 | 近くの保育園の運動会見学や、園児を招いての芋ほり大会等、保育園との交流が活発である。また、小学校の福祉体験や、芦北高校福祉科生徒の実習受け入れを行い、町の文化祭に利用者の作品を出品し、その片付けにも参加する等、地域との付き合い継続に努めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症サポーター研修を職員16名中14名が取得し全員取得を目標に掲げている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進の委員の方から頂いた彼岸花の苗を土手に植え保育園児の散歩時に花を見れるように計画実践したり委員の方の指導で竹細工をつくり文化祭に展示したりした。 | 委員は、行政・地域包括・地区会長・民生委員・家族代表・利用者代表と、ホーム職員4名で構成されている。7月に開催された会議には、実習体験に来ていた小学生や、高校生も参加。発言はなかったものの、貴重な体験になったものと思われる。ホームから、行事やイベントの報告後、委員からコスモス花見の場所の提案や、他事業所の防火訓練の事例が報告される等、活発な質疑応答が運営に活かされている。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議には、毎回参加されており介護保険に関する疑問点などへの回答を得たり連絡を取り合っている。 | 介護認定申請等の事務手続きや、介護保険制度について質問・相談をしたり、社協主催の研修会に参加するなど、必要な時は出向いているが、ホームからの積極的に招待する等の、働きかけはなされていないように感じられた。 | 行政担当者に対して、誕生会や、夏祭り・クルスマス会・餅つき大会等、ホームの行事へ招待し、推進会議の日以外の利用者や、職員の様子を見てもらうことでホームへの更なる理解が生まれ、協力関係が密になるものと思われる。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 当事業所の看護師が身体拘束の委員長であり会議の開催を積極的に行っており職員への周知を行って玄関への施錠はせず外へ出られる方には職員が付き添い対応を行っている。 | 母体法人と合同で「身体拘束委員会」を毎月1回開催しており、ホーム職員がその委員長に就任している。会議終了後には、全職員に会議内容の周知徹底を図っている。尚、夜間に限って、ベッド柵を使用する人が2名。その他「待って」や「どこへ行くの」等の言葉による行動規制に繋がる声掛けは職員同志で、注意し合い、拘束のないケアの実践に努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 勉強会で身体拘束と虐待防止について学ぶ機会を設け事業所内での虐待が起こらないよう見過ごさないようにしている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 利用者の中に成年後見人制度を活用されている方がおられ身近なことと受け止めることで勉強会などで勉強をする機会もあった。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | グループホームの2ユニットの新規利用者については、家族を一同に集まっていただき家族への説明会を行った。入退所の際も管理者と看護師で説明を行い家族からの質問に十分こたえるようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議への家族代表者の参加で意見を頂いたり毎日面会に来られる家族からの要望には即対応をしている。 | 面会時に個別対応の意見や要望を聞き取る働きかけをしている。食事回数の頻度や、定期的な往診の依頼、居室に加湿器や冷蔵庫を置きたい等の要望には即、対応している。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | アセスメントシートに利用者に関する要望や運営に関することなどを書いてもらい改善するものがあれば改善するようにしている。 | 定期のカンファレンスやミーティングの際は、職員が意見を言い出しやすい雰囲気が作られている。「アセスメントシート」には、ケアでの気づきや家族から聞き取ったことを詳細に記録し、管理者が個別に朱書きのコメントやアドバイスを記入しており、重要事項は、朝のミーティングで議題に取り上げている。「どう接していいかわからない」というケアの悩みも書き込まれていることがあり、職員の本音を知ることが出来、ケアの質の向上に役立っている。 | アセスメントシートは、小さい紙面いっぱいに記入されており、もう少し大きいサイズにすると書きやすいと思われる。 |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 一般職員、主任、副主任に分かれた勉強会で,仕事や生き方などに関する教育がなされており一人一人が人としての向上ができつつある。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 月に1回の勉強会や社協主催の研修会に参加する機会を得て認知症に関する勉強などを行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 水俣・芦北のGHブロック会に参加し同業者との交流や意見交換、事例検討などを行っている。昨年は、新規に建ったGHなどを見学に行った。 | | |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | ] | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所当初は家族からの聞き取りや他の病院やケアマネからの聞き取りでアセスメントをとり不安を取り除くように外出ドライブなどを取り入れたりしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所時のケアプラン作成時に家族からとご本人からの要望を取り入れ、ケアプランに反映しており1か月間は聞き取りを行いながら要望を聞きプラン見直しを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 医療面での支援が必要ならば訪問看護や主治医の往診をお願いしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 洗濯物の衣類のたたみには毎日数名の方が参加していただき片付けに協力してもらっている。昨年回想法では干しからいもの作り方などを教えていただいた。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | １２月４日に１０３歳を迎えられた利用者には夏場具合が悪い時期があったが職員と家族との支援で元気に誕生日を迎えられることができ家族も感謝されていた。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 漁協の組合長をされていた方は、海を見ることが心の安らぎにつながると要望されることもあり海辺への外出などドライブに出かけている。 | 時代の変化と共に、行きつけの店や場所が減少しており、馴染みの所へはドライブの帰りに立ち寄ったり、利用者の自宅近くまで行き、近隣の馴染みの人に声掛けする等、意識的な働きかけが心掛けられている。家族も住んでおらず、空き家になっている自宅への仏壇お参りに同行し、本人に安心感を持ってもらう等の支援が行われている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | おもにプレイルームで日常過ごしておられる方が多く洗濯物のたたみなど共同で行い、たまに口げんかがあるが職員が間に入り対応を行っている。居室で過ごしている方もおられるが、その人の意志を尊重している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所のなられた方は、法人の特養に移っておられる方が多いので関係性は保たれている。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ドライブを楽しみにされている方は、周辺へのドライブを実施したり帰宅願望の方には自宅まで行ったりしている。 | 日常の会話や、昔の写真を一緒に見る等して、思い出の中から、想いや意向の把握に努めている。みかん農家や、漁業従事者だった人の思い出の場所に行ってみたいとの要望に応えて同行したり、「のど飴が欲しい」という人とコンビニに買い物に行く等、その都度柔軟な対応がとられている。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時前の情報は、ケアマネージャーに聞いたり家族から情報収集したりしながら入所前の状態把握に努めてケアプランに反映している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 活動日誌に申し送り等は書き添えて休みの職員にも情報が伝わるようにしており特変があった場合は、メモ書きで伝えたりしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | アセスメントは各担当者で作成しそれを基に家族からとご本人の要望を優先に計画作成担当者がプランを作成している。 | アセスメントは利用者毎の担当者が主となって作成。日々のケース記録やカンファレンス、担当職員が行う1か月毎の総合評価を参考にして、管理者がモニタリングと介護計画立案を受け持つ等、管理者・職員が役割を分担し、介護計画を作成している。計画作成の過程で本人・家族と話し合い、意向の確認が行われており全員で計画作成に取り組んでいる事が確認された。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | アセスメントシートという職員が気付いたことをシートに記載し上司に提出行い改善を図るということを行っていたが途切れていたので現在再開中である。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 職員間で一部の職員が物品管理や医療面(その他の業務)などに精通しているのではなく全体の底上げを図る為に多機能化という意味で各職員に各セクションの担当につき責任を持たせて取り組んでもらっている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域社協の主催する研修に職員を派遣し認知症の方に対するリハビリプログラムやレクリェーションなどを習得してもらい当施設の利用者にパズルなどを作成して安全に楽しみながらできるプログラムで支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 毎日面会に来られる利用者の家族より主治医への往診を依頼されたので隔週金曜日に往診していただいている。 | 入居時に家族と話し合い、ホームの協力医が主治医となるよう医療対応の1本化を図っている。家族の希望で定期的に往診を依頼している利用者もいるが、病院付き添いは受診前後に家族と連絡をとり、ホームの看護師が行っている。緊急時や、特別な検査を必要とする場合は家族も同行して納得が得られる受診支援が行われている。協力医や調剤薬局との協力関係が築かれており、定期処方薬は薬局から届けられる連携も見られた。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 主任看護師で一名施設に配置しており医療面でのことは看護師がすべて把握し必要であれば病院受診などおこない対応をしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院が発生した場合は、病院に連絡をとり情報収集に努めており退院後もスムーズに退院後の生活が送れるように病院からの情報収集と主治医への連絡を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご家族のご希望があればグループホームで出来る対応がここまで可能ということを説明し、納得が得れば看取りまで対応するという方針で取り組んでいる。 | どこまでを看取りと判断するか、難しいと考えているが、家族の要望もあり、看取りに近いケアも実践中。母体法人からの異動で、ホーム職員の看護師と協力医の往診で、見守り支援が行われている。 | 現在の見守りの経験を踏まえて法人・運営推進会議・職員等で、看取りに関する明確な方針を打ち出す等、話し合いの場を設ける必要があるのではないかと思われる。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 月の勉強会で急変時、事故発生時に対応する勉強を行っていざというときの対応方法に間違いがないか確認を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 防火訓練は直近で9月に行い避難訓練、通報訓練、救急蘇生法などを学習している。<br>3．11の地震後、保存食の準備を行い、他に各居室にヘルメットの他に防空頭巾を設置した。 | 法人の防災規定に沿って、全職員の緊急連絡網が整備されている。24年間保存可能なサバイバルフードや乾パン、保存水、米等も備蓄。防災頭巾とヘルメットは全利用者の居室と、職員用はキッチン入り口に常備され、災害に対する安全確保に取り組んでいる。運営推進会議では、行政から、他事業所の事例が報告され、防災意識を高める話し合いを実践している。 | 自主的な防災対策はの取り組みはきちんとなされているように思われるが、今後は更に、民生委員や地区代表の協力も得ながら、地域住民へ働きかけが望まれる。 |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 独り居室で過ごされるのを好まれる方には、部屋食を提供している。また、家族が毎日面会される方については、部屋で家族が一緒に過ごすことができるように配慮している。 | 入居時から、1人で過ごす事を好まれる利用者には、食事も居室でしたいという意向に沿った対応が取られているが、孤立している状態ではなくリビングに出たら、挨拶されたり、自由な暮らしの見守りが感じられた。また、面会時は本人と家族との時間を居室でゆっくり過ごせるように配慮している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 「アメば買につれていきなっせ」と希望される方にはコンビニまで購入に行ったり外出を希望される方にはドライブに連れて行ったりしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 出来るだけ自由に過ごしてもらう事を念頭におき対応している。外出を希望される方については職員が付き添いを行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 馴染みの理美容院があれば職員の送迎でお連れしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 毎食、同法人の特養施設で作られた食事を提供しているので食後、食器を片づけたり茶碗洗い、テーブルを拭いていただく程度である。行事の時はケーキつくりやおやつ作りに参加いただいている。 | 開設当時は、ホームで食事を作っていたが、利用者との触れあいや見守りの時間を多く確保する為に、現在は併設母体法人の特養で作られたものを、ホームで利用者の嚥下形態に合わせて刻んだり、柔らかくしたりと食べやすい工夫を行っている。2ユニットの利用者が一同に会して、穏やかで落ち着いた雰囲気の中での食事風景が見られた。誕生会、クリスマス、正月等の行事食が実施され、季節に応じて素麺流しや梅ジュースが提供され、喜ばれている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養バランスは、特養の栄養士で管理されいる。直近、十二指腸潰瘍の方には始めミキサー食から提供したり状態に応じて対応を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に洗面所で入れ歯洗浄とイソジン液を薄めたものでうがいをして頂き口腔内を清潔にしている。一人でできる方については、必要物品だけ用意しご自分で行っていただいてる。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 入所時にオムツやリハビリパンツ使用だった方もトイレのサインを見て誘導を行い結果布パンツへ移行した例もある。昼間は、ほとんどトイレで排泄行われている。 | 夜間はおむつを使用する人も、日中は早めの声掛けで普通のパンツを着用し、トイレでの排泄を支援している。夜間、尿意が自覚できてもトイレまで間に合わない人にはポータブルが準備されているが、日中は部屋から出し、日光消毒をする等の配慮も見られた。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 昼間の特製ジュースにオリゴ糖を入れたものを提供したり毎食水分にオリゴ糖を混ぜて提供行い、排便が良くなった例もある。どうしても出ない方は、緩下剤を使用している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 事務所にあったエアコンを脱衣場に移設を行い冬場は暖かい環境を作ることができた。冬場はゆっくり湯船につかり温まることができるように2人体制で行い拒否がある方は時間や日をずらいたりしている。 | 比較的大きな浴槽の風呂と、特殊浴が、18人の利用者の身体状況や希望に合わせて、使い分けられている。入浴はほぼ午前中に行ない、、熱めのお湯が好みの人、ぬるい方がいい人、長湯の人、短い人等、その人個別の要望で入浴順番が決めてあり、、拒否の人には「血圧が安定していますよ」の声掛けや、男性職員の声掛けなら応じる利用者等、一人ひとりの入浴に関するケアのあり方を把握した支援が行われている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夜はゆっくり眠ることができるように寝巻に交換行い休んで頂いている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 主任看護師により勉強会などを開催し職員に指導を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入所前に兄弟でカラオケに行っておられた方には、月曜と木曜日にカラオケ日を作りカラオケで歌っていただいてる。その他に美空ひばりが好きだった方についてはDVDを鑑賞していただいている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | バラ園見学、蛍見学（夜間に）、コスモス見学、紅葉見学など季節の行事ごとで出かける機会を多くした。その他、日常的に出かけたいと希望があるので希望時は近隣のドライブを行っている。 | 理事長自ら、手造りの日本庭園は、利用者の散歩コースとなっており、春には梅や桃の花を楽しむことができ、利用者に喜ばれている。利用者の要望に応えて外出の機会は多く、近くは御立岬へのドライブや、遠くは水俣のバラ園・人吉の紅葉見物に出かけている。日常的なドライブでは、計石漁港や地区のかかし見物に行く等、自然と親しみ、季節感を味わう試みが、積極的に行われて、利用者の笑顔を引き出す取り組みが見られた。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 小遣い程度を家族が渡されている方もおり職員はご本人に管理をまかせて干渉していない。自動販売機でジュースを買われる方は、小銭を渡している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話を家族にかけたいといわれる方については、職員でかけて取次ぎを行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 夏場は、強い日差しが入らないように寒冷紗を設置行った。光、温度調整を行ったりグリーンカーテンを作成し設置したりした。他には季節に応じた飾り付けやプランターの花育成を行ったり冬場は炬燵の設置を行った。 | 2つのホームの間仕切りを取り払い、広々としたゆとりあるリビングとなっている。それぞれのホーム双方に大型コタツが置かれ、利用者同士が談笑中。車椅子のまま入れるよう、コタツ足を継ぎ足す工夫が見られた。居室に通じる廊下の白い壁には、カレンダーの絵や犬の写真を縁飾りや、造花で囲む等などして、親しみのある雰囲気を醸し出していた。掃除も行き、届き清潔感のある共有空間となっている。 | ホーム1の浴槽は、広くて身体のバランスがとりにくいように思われる。出入りの邪魔にならない位置に、もう一本手すりを取り付けることで、安全な入浴支援につなげる事も考えられる。 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | プレイルームに炬燵とソファーを設置しており各利用者ごとに座る場所が大体決まっている。その場所がそれぞれ落ち着く場所になっていると考えられます。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 出来るだけ入所時に家庭で使用されていたもの使い慣れたものを持参していただくようにお願いしているが、新しいものの購入が多い一部の人は昔使用の物を持参されている。 | 備えつけの整理タンスやベッドの他に、ソファーや椅子・テーブルが置かれた部屋、テレビや冷蔵庫のある部屋、洋服掛けに沢山の服がかけてある部屋等、家族の思いが伺える居室となっている。壁にはどの部屋も担当職員の支援で、写真や造花が飾られ明るく温かな印象となっていた。設計の段階で部屋を広く使えるよう洗面台をあえて設置せず、各部屋のカーテンの模様を全て違えるというこだわりが活かされ、どの部屋もその人に合った個性的な居室造りとなっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 失見当識障害等でトイレの場所がわからない方がおられたので「トイレ」の表札を掲げ場所を分かりやすくした。 | | |